

宮崎県学校体育研究発表大会の研究 「つながりのある学習の研究」と「各部会の研究」について

- R2 年度までの学体研では、2日開催と1日開催を隔年で行ってきた。2日開催の年には、1日目に小中高特が一会場に集まり（全体会）、「つながりのある学習の研究」について、それぞれの校種で授業を1本ずつ発表していた。2日目は、「各部会（小学校部会）の研究」について、各校種に分かれて行い、授業を2本以上発表していた。1日開催の年には、「各部会（小学校部会）の研究」のみを発表していた。
- R3 年度から毎年1日開催となり、「つながりのある学習の研究（小中高特合同の全体会）」と各部会（小学校部会）を交互に行うことになった。

【全体会と各部会】

	全体会（小中高特合同）の年（R4.6.8）	各部会（小学校部会）の年（R5.7.9）
研究発表	○「つながりのある学習の研究」	○「つながりのある学習の研究」 + ○「小学校部会の研究」
授業数	1本	2本以上

- 全体会（小中高特合同）発表の年には、「つながりのある学習の研究発表」を行う。
- 各部会発表の年には、「つながりのある学習の研究発表」と「各部会（小学校部会）の研究発表」を行う。
- 全体会（小中高特合同）では授業を1本、各部会（小学校部会）では授業を2本以上行う。

【「つながりのある学習の研究」と「各部会の研究」の目的と研究内容】

	つながりのある学習の研究 (小中高特合同)	各部会の研究 (小学校)
研究目的	○12年間を見通した計画を立て、学習内容の定着を図ることを目的としている。 ※4部会が顔を合わせ一緒に研究に取り組むことに意義がある。	○開催地区の実態や課題に応じて研究を深める。
研究内容 研究領域	○小中高特で研究内容、領域をそろえる。 ※開催地区の小中高特の研究部で決定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">R3：都城・三股地区 研究領域（そろえる） 『ボール運動：ゴール型』 小：タグラグビー 中：バスケット 高：バスケット 特：ボール運動系</div>	○開催地区の小学校部会（地区の小体連）で研究内容、領域を検討し進める。 ※地区小体連で決める。 ※保健でもよい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">R3：都城・三股地区 研究領域（各体連で） 小：体づくり運動 中：ソフトテニス 高：バスケット 特：バスケット</div>
研究 テーマ	県の研究テーマにそろえる（主題はそろえる） 宮崎県学体研の研究テーマ＝九学体研の研究テーマ	

研究内容は、遅くとも開催前年の第3回準備委員会（2月）までには決定する。

- 「つながり」の研究の具体的な研究内容は、開催地区の小中高特研究部で協議して決定する。
- 「各部会」の研究の具体的な研究内容は、開催地区の小体連で協議して決定する。
- 研究内容は、遅くとも開催前年の第3回準備委員会（2月）までには決定する。
- 「つながり（小中高特合同）の研究」と「各部会（小学校部会）の研究」は、どちらも県の研究テーマに沿って行う。
- 「つながりの研究」と「各部会の研究」の研究テーマ（主題）については、県の研究テーマと同じとする。

【「つながりのある学習の研究」と「各部会の研究」のイメージ】

県の研究 県の研究テーマ（＝九州テーマ）	
つながりのある学習 ○研究内容は4部会（小中高特）で決定 ※研究内容をそろえる ※原則として領域をそろえる ※4部会が顔を合わせ一緒に研究に取り組むことに意義がある。	各部会の研究 ○研究内容は各部会で決定 ※研究内容は各体連で決定 ※体育理論、保健でもよい ※研究テーマはつながりのある学習と同じ

以前は、「県の研究」「地区の研究」という表現を使ってきたが、どちらの研究も同じ研究テーマに沿って行い、下のように、全く別の研究ということではない。

県の研究 県の研究計画 つながりのある学習	地区の研究 地区の研究計画 地区の研究内容
------------------------------------	------------------------------------

☆ 今後の研究を進めていく上での留意事項

○令和7年度までの計画は、以下の通りである。

年度	開催方法	開催地区	つながりの研究領域	各地区の研究について 学体研での発表の有無	
				各地区の研究・領域	発表
4年度	全体会	日向地区	『ゴール型』 『ネット型』	(各地区で決定)	×
5年度	各部会	串間地区		(各地区で決定)	○
6年度	全体会	小林地区		(各地区で決定)	×
7年度	各部会	延岡地区		(各地区で決定)	○

○令和4年度は、全体会として日向地区で開催される。「つながりの研究領域」は、ゴール型（タグラブビー）で、授業発表を行う。全体会の年なので、授業はこの1本のみである。そのため、各地区の研究については、発表することができない。

○令和5年度は、各部会として串間地区で開催される。「つながりの研究領域」は、ネット型で、授業発表を行う。各部会の年なので、串間地区で進めている研究についても発表する。

※ つまり、全体会の年に開催する地区は、時間の都合上、つながりのある研究の授業を1本のみ発表となる。そのため、各地区で進めている独自の研究については、発表することはできない。各地区の研究領域を「つながりのある研究」の領域にそろえておくことで、負担を軽減できると考える。

例) 令和6年度に、全体会の学体研が小林地区において開催される。領域は、ネット型である。地区の研究として「ネット型」で進めておけば、「つながりのある学習の研究」もスムーズに進められる。一方、小林地区が他領域で研究を進めていた場合においても、学体研では「ネット型」の発表となり、地区で進めていた他領域の研究については発表することができない。（ただし、県小学校研究収録の「研究のあゆみ」の欄に掲載することはできる。）